【研究テーマ】
当院入院の高齢心不全患者における低栄養およびフレイル合併率について

研究責任者：徳島県立三好病院　リハビリテーション技術科　主任主事　秋野琢斗
共同研究者：徳島県立三好病院　リハビリテーション技術科　主任　　川村圭司

【研究目的・意義】
近年，社会の高齢化に伴い，心不全が世界中で増加し心不全パンデミックと呼ばれる事態が進行している．日本の高齢化率は28%であるが，徳島県西部に位置する三好市は高齢化率46%と非常に高い値を示している．日本全体として今後更なる高齢化率の増加が予測されており，特に後期高齢者は2054年頃まで増加傾向が続くと見込まれている．このことから徳島県西部圏域が抱える課題は世界並びに日本に先駆けて直面しているとも考えられる．また，高齢心不全患者はフレイルや栄養障害を合併した患者が多く，予後不良となることが知られている．以上のことから，地域特性として非常に高い高齢化率を示す当院入院の心不全患者において，フレイルおよび栄養障害の合併率を調査することは重要な意味を持つと考える．

【研究方法及び内容】
研究デザイン：後方視的観察研究
試料・情報の内容：カルテより以下の情報を引用．
・年齢，性別，身長，体重，主病名，入院前ADL自立度，NST介入の有無．
・血液データ(BNP，WBC，Alb，T-CHO，TLC，Hb)．
・心エコーデータ(LVDd，LVDs，EF，%FS，E/E'，E/A)．
・運動機能評価(SPPB、握力)，栄養評価(MNA-SF，CONUT score，GNRI)，
　フレイル評価(J-CHS、Makizako5)．
評価方法：心不全群と整形外科群の2群間で栄養評価(MNA-SF，CONUT score，GNRI)，フレイル評価(J-CHS、Makizako5)，運動機能(SPPB，握力)について統計処理ソフトを用いて比較検討する．

【研究期間】令和4年11月1日～令和5年11月30日

【研究対象者】
令和4年11月1日～令和5年4月30日にリハビリ処方のあった入院心不全患者および膝・股関節・脊椎の手術予定で入院される整形外科疾患患者のうち，75歳以上かつ入院前のADLが自立している者および認知症の診断がない者．